

婦人の子を毛

第五卷
第十二號

謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者相互の質疑應答を掲載す、但讀者の應答なき時は、記者之に應ずるものとす。

本誌は一般讀者の寄稿を歡迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但質疑投稿は、凡べて左の規則によることとす。

- 一、用紙は、白紙二つ折、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざること。
- 一、封書の表には、凡て婦人子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから、其割合で女子高等師範學校附屬幼稚園内フレーベル會へ向け何ヶ月分加纏めてお納めの上、申込まれますと、雜誌は當會から無代價で御送附します。會員にならないで、たい雜誌だけ買つて御讀みになりたい方は、日本橋區本石町三ノ三金昌堂へ御注文下さい、一冊拾錢六冊前金五拾七錢十二冊前金一圓拾錢他に郵税が一冊一錢づゝの割合です。

明治三十八年十二月二日印刷
同 年十二月五日發行

不許
復製

發行所 東京市麹町區富士見町六丁目十番地
編輯者 東京市神田區錦町二丁目十九番地
印刷所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地
印刷所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地
發行所 東京市日本橋區本石町三丁目三十三番地
發賣所 東京市日本橋區本石町三丁目三十三番地

大賣捌所 東京 東京堂●同東海信文合資會社●同北隆館

婦人と子ども第五卷第拾貳號目次

卷 首

附屬幼稚園の庭園

子ども

四つの願(お伽噺).....やまとの翁.....一頁

婦人と子ども

子供の特性につきて.....尾田 信忠.....二六

子どもの教育.....リチャードソン嬢述.....三七

實驗上の育児法.....醫學博士 瀨川昌蒼君述.....三九

臨時客來料理.....石井泰次郎.....四〇

貞一の日記.....その 母.....四一

子供の涎掛.....村田かめ子.....四二

婦人と親族法.....太田 英隆.....四四

短歌.....眞宮 起雲.....四六

俳句端書集.....鹽野 奇零.....四七

桑港のわびずまひ.....敏 子.....五〇

新刊案内

母のみやげ

我子の養生

先 世

靈 火

保育者のため

幼稚園幼児の机腰掛とその並べ方.....

東基吉君談話.....五七

幼兒に適切なる談話の種類及其敎的價值.....

女子高等師範學校調査.....五九

遊園の設備.....全 上.....六三

會 報.....六六



附屬幼稚園の庭園



もど子と人婦

號貳拾第卷五第

もど子

四つの願

やまとの翁

今からづーっと昔には、神様が
時々、人間の姿をして、世の中
へ出ていらしたといふことで
すが、このおはなしも、やはり
其時分のことでございます。

さても、ある年の暮の大晦日の夕方、乞食の様な姿をした二人の穢い旅人が、とぼくと勞れた足をひきずって來て、一軒の金持相な農夫家の前に止って、今夜一晩丈け、泊めてくれないかと頼みました。其家の主人は慾助といふのですが、

「いや、私の家は狭くって、とても旅の人だの乞食だのを泊らせる室などはありませぬ」

と斷はりました。

旅人は夫を聞いて、夫では仕方がないといふので、重た相な足をひきずりながら、又づんく歩いて行って、今度は汚い小さな農夫小屋の前に止って、前の様に頼みました。其小屋には貧乏な夫婦の農夫が住んで居りました。

「さあ／＼お這入りなされませ、ご覽の通りの家ですから、着て寝るものもございませんが、夫でも宜しければ、這入ってゆっくりお休み下さいませ」



といはれたもんですから、二人も喜んで、夫ではお邪魔になりませうといひながら、草鞋や脚絆など解いて、どっこいしよと上っ

て、やれくといふので、先つ一服と火の側に寄つて足を伸ばして休んで居ます、と、勝手の方では、おかみさんが、亭主に低聲で言つて居ります。

「ねーあなた、明日はお正月の元日といふお芽出たい今晚のことですから、あの二人のお客様にも、何か御馳走したいものですね。そうく、いっその事一番の鶏ね、あれをしめ様ではありませぬか」

すると亭主の方では

「うん、いゝ所に氣が付いたな、夫じゃあれを料理しよう」

そこで、二人は早速二羽の鶏を料理して、夕飯の御馳走にしました所が、二人の旅人は大層喜んで頂きました。其中寝る時間にな

りますと、夫婦は自分等の布團をお客様に着せて温かく寝かせて置いて、さて自分等は、別に納屋から藁を取り出して来て、庭の片隅に夫を敷いて其中にくるまって寝て仕舞ひました。

さて、其翌朝の元日になりますと、二人は厚くお禮をいって出立って行かうとしましたが、夫にしてもこんなに親切に泊めて貰ったが、ご覧の通りの乞食だから、お禮をさし上げる事も出来ないで、實に御氣の毒だといふことを、くり返しくり返し言つて居ますと、夫婦は心立の善い人ですから「決してそんな御心配はいりませぬ、お禮を頂く積りでとめた譯ではありませぬから。」

といつて斷つて居ります

さてこの二人が、今しも其小屋を出やうとした時に、一人が、ひ
いと振り向いて、

「時に御夫婦の方や、あの夕の鶏ね、あれには脚があつたのかな」と聞きました。亭主は、はて妙な事を聞く人だなと思ひましたが、夫とも、鶏の脚を欲しいとでも思つておいでるのかとも考へまして、

「へい、脚はございますが、然し全体鶏の脚つてものは別に何にもなりませんもので」

「ふーん、何本あるかの」

「そりや二本でございますよ」

随分變な事を聞く人だと心の中で不思議に思ひながら、眞面目に

答へますと、

「あゝそうか、それではお前さん、何でもよいから、二つ丈けお前さんの希望を言つてごらんなさい」

といふ、然し亭主は、希望といつて他にない、たゞ毎日のお米が頂けて、安樂に暮らして行つて、死んでから極樂に行ければ夫で宜しいのであると答へました所が、

「じゃー、其希望は屹度叶うことになる。夫では來年の今頃又やつて來ますよ」

と言ひ残して其小屋を出て行きました。

所がさて其日からといふものは、この夫婦の小屋は急に繁昌して來ました。田や畑のものは、かり入れてもくどんく實熟つて

くる、牛や豚は數へ切れない程子を生んで増へて来る、といふ調子で、一年の中にこの貧乏夫婦の家は、めきくと金持ちになつて参りました。で、今度の大晦日の晩、二人が又やつて來たら、思入りお禮をいはねばならぬと、二人は待ち構へて居りました。さて、近所の人等はこの二人の繁昌に付いては非常に驚いて居ましたが、其中でも殊更屹驚したのは、最初に二人の旅人を斷はつた金持の惣助でした。で、二人の繁昌は全くあの晩の乞食の旅人の賜物だといふことを夫婦の者から聞いた時は、「やれそんな事ならあの二人を泊めてやればよかったのに、残念な事をした」といふので、一通りでなく後悔をしました。が、又今年の暮の大晦日にもやってくるのだといふことを聞いて、夫では今度きたら

是非私たちの家へ其二人をよこして下さいといふことを、いろいろと夫婦の者に願ひましたので、元來、心立のよい人等ですから、そんなに仰るなら、今度参つたら、卿等のお家へ行く様に申しませうと固く約束しました

さて其中に、月日がたつて、又年の暮になりますと、その大晦日の晩に案の通り昨年と同じ旅人が二人やつて参りまして、夫婦の家の戸口を叩きました。夫婦の者は、いさなりそこへ飛んで出て、昨年からこんなに繁昌になったのは、全くお二人のお蔭だといつて、いろいろとお禮を申し上げると、二人の旅人たちは、夫は前方の正直のお蔭といふものだ、別に私たちに禮をいうことも要らない、そこで今夜も厄介だが一晚泊めてくれないか、と申され

ます。二人は、それはお安い事で、是非泊って頂きたいのですが、
 お向ふの惣助様が、昨年の暮、卿方をお断はりして、まことに濟
 まなかつたから、今年是非、よこしてくれ、去年のお詫をした
 いからと申しますから、夫では屹度お二人に行つて頂く様にしま
 すと固く約束しました、と申し上げますと、二人は

「あ、そうか夫では、今晚は惣助さん家へ泊めて貰ふことにしよ
 うかな」

といふので、二人は惣助の家へ出かけて行きました。
 すると、惣助の家では、さあ福の神の御降來だといふので、家中
 上を下への大騒ぎ、惣助二人は、早速玄關へ飛んで出て、去年の
 暮は家が大層取り込んで居て、飛んだ失禮をしたといふ様な事を

千偏も萬偏も謝罪あやまって、さて、お二人ふたりをば一番上等の大廣間へ案内あん内ないをすると、勝手かたての方では、肥ふとった牝牛めうしを殺ころして、夫それを料理りようする、其他その他に酒さけや肴さかなや海山うみやまの御馳走ごちそうを并ならべ立てゝ饗應きやうおんをします、

さて、翌朝よくあさ二人の旅人たびとたちは早く起おきて出立しゅつの用意よういをしますので、慾助よくすけ夫婦は、今日は元日げんじつだから、せめてもう一日御滯在ごちざいを、といひますと、

「いや、まだこれから先へ行ゆかねばならぬから」といひます、夫それでは、今いまに馬車ばしゃを支度しださせますからといふので立派ばいな馬車ばしゃを用意よういして見事みごとな馬うまを二匹ひきつけて、立關げんかんで待まちたせて居をます。二人の旅人たびとは「これはどうもお世話せわ様さまになりました」と丁寧ていねいに禮れいをいって、さて出でかける時ときになつて次の様ように申まうします。

「折角お世話になりましたが相憎、お禮をするお金の用意もなく
 ってお氣の毒だ、……時に、あの、牛には角があるかの」

慾助は、雞の足の話を夫婦から聞いて居ますから、今この間を聞
 いてそらおいでなすった、と思つて

「えーえ、ありますとも」

と答へると

「うーん、何本あるかな」

おかみさんは側に聞いて居て、此時そーつと慾助の袖を引っぱり
 ながら小聲で低聲きました。

「あなた、四本だと言ひなさいな」

慾助は「よし／＼承知だ」とこれもそーつと答へながら、

「へーは、確か四本で」

「あゝそーか、ではお前方に一人に二つづゝ、つまり四つの願を叶へさせて上げ様」

と言つて置いて馬車に乗りました。惣助は自分で馬を逐って行つて此村の端れまで送つて置いて歸らうといふのであります。然し一生懸命に馬を逐つて居る中にも、其四の願を何にしようかといふことを絶えず、胸の中で考へ込んで居ります。所が、不意に馬が二匹とも顛げて、其爲に折角の馬具が臺なしに壞れました。惣助は、かと腹を立て、

「えゝ祿でなしのやくざ馬奴、いっその事死んで仕舞へばいいに」と言つたが早い、二匹の馬は忽ち死んで仕舞ひました。さてこ

ゝで慾助の四つの願の中の 하나가叶ったことになって仕舞ひました。慾助は心の中でさてくつまらぬ願を言つて仕舞つたと思ひながら一人で馬車を引きづつて。やつさくとやつて行きます。

さて。慾助の女房は獨りで家に居て。今に慾助が歸つてくれば、

早く四つの願を相談して決めよーと思つて、待つてもく歸つてこ

ない、立ったり座つたりして居たが、とうく門口まで出て見たが、

影も形も見えない

「えー何をしてるんだらう、ほんとに愚圖じやないか、さつさと

歸つてくれはいゝに」

と言つて見た所が、忽ち慾助が其處へ歸つて來ました。夫を見て

おかみさんは

「おやくこれで折角の願を一つふいにしてしまった、夫はそうと、お前さん何故馬車なぞひきずって來たの、一體馬はどうしたんです」すると惣助は眞赤になつて怒り出して、

「どうしたって、こんなつまらない事したらありやしない、馬がけつまづいたから、こんな録でなしのやくぎ馬は死んでしまへばいゝといつて見た所が、どうだい、直ぐ願通りに死んで仕舞つたじやないか、これで己の持つてゐる折角の願を一つふいにして仕舞つたんだ、一体、これといふも、貴様が餘計な口を出したためだ、己は始から、牛には二本の角がありますといはうとして居たんだのに、貴様が四本といへといつたんじゃないか、貴様の様な女には頭に牛の角が二本でも生へて來ると丁度いゝのだ」

腹の立つた儘に、
 後前も考へない
 で言つて仕舞う
 と、忽ちおかみ
 さんの頭に、牛
 の角が、二本ニ
 ユーッと生へて
 來た。慾助は、
 「やつ、しまつ
 た」
 と言つたが、も



う遅い、慾助の
 願は、これで二
 つとも叶つて仕
 舞つた。残つて
 るのは、おかみ
 さんの願が、後
 に一つ切りだ、
 慾助は、やつと
 氣を落ちつけな
 がら、
 「時に女房や、

もう後には、お前の願一つだから、どうかして夫を甘く叶へさせたいものだ、どうだ、お金を山ほども慾しいと願って見ないか」と言ふと、おかみさんは、怨めし相に頭の角に觸って見ながら「馬鹿々々しい、幾らお金があつたって、死ぬ迄こんなに頭に角なんか生へられて居て堪ったものですか、夫よりか、神様がきて一時も早くこの角を取ってくれる方がどれ位ありがたいかも知れないわ」

と言つたと思ふと、二本の角は何時の間にか消えて仕舞ひました。さて、これで四つの願が残らず叶った事になりましたが、結局慾助は、其爲は一つも儲かる所がございませんでした、さしひき二匹の馬と一匹の牛を殺した丈けが損になつて。めでたしく

婦人と子ども

十八



子どもの特性につきて

(承前)

尾田信忠

(四) 兒童の健康と性質

(甲) 先づ身體強壯なる兒童の性質、及び身體虛弱なる兒童の特性、及び身體の健康通常なるもの、性質を示さん。

(一) 身體強壯なるもの。

各級にて行狀殊に惡し、と云ふもの大抵此中にあり且つその通性は大膽、無頓着、粗暴、舉止不整、

無規律等なり。

此中に行狀殊に善きものあり。而してその通性は理に従つて事を處す、事を爲すに熱心なり、實着、徹底せざれば止まず等なり。

此中にて舉動不活潑なるもの殆んどこれなく、又其舉動活潑にもあらずれば不活潑にもあらずと云ふものも亦甚だ少く、多數は其舉動活潑なり。

(二)身體虛弱なるもの。

各級にて行狀殊に惡し、と云はれ居るもの、一部は此中にあり。今此種の兒童數名の性質を挙げ、身體虛弱なるものにて其性質惡しと云ふは如何様に惡さを示さん。

高等小學一年級生徒	某	忍耐力に乏し	輕躁
尋常中學一年級生徒	某	姦惡 表裏一致せず	小説を好む 不平をならす
尋常中學三年級生徒	某	柔弱 臆病 稍輕躁	虚言を吐く

各級にて其行狀殊に善しと云はれ居るものは、其級の身體虛弱なるものより出づること甚だ少し、稀にこれある場合には其性質溫順なりと云ふに過ぎず。

身體虛弱なるものにして、其舉動活潑なるものなく、又活潑にもあらずれば不活潑にもあらず、即ち通

常なりと云ふものも少なく、大部分は不活潑なり。

(三) 身體の健康通常なるもの。

各級にて其性質殊に善しと言はれ居るものが此中より出で居ること少なからず。

各級にて其性質殊に惡しと言はれ居るものは、余の調査したる所にては此中より出で居るもの少なし。

此種類の兒童の性質は多種多様なれば、特にかゝる性質のもの多しと斷言する能はず。

此種類の兒童の舉動は、余の調査したる所にては活潑にもあらず、不活潑にもあらず、即ち通常なるもの

の多けれども、また不活潑なるもの頗る多かりき。而して舉動活潑と云ふものは極めて少なかりき。

(乙) 吾人は前項に於て、身體殊に強壯なるもの、及び身體殊に虛弱なるもの、特性を挙げたり而して身體

の健康通常なるものは其性質多種多様にして、特に言ふを得ずと云ふことを述べたり。吾人は今こゝ

に吾人の調査したる各級につきて、其性質殊に善し又は殊に惡しと云はれ居るものと、身體の強壯虛弱

との關係を表示せん。

性 質	年 級	性 質	年 級
性質殊に善きもの	高等小學一年級	九人〔中三人は身體強壯 中一人は身體虛弱〕	尋常中學一年級
性質殊に惡きもの	同 二 年 級	七人〔中四人身體強壯 中一人身體虛弱〕	尋常中學三年級
性質殊に善きもの	三人中二人身體強壯	六人〔中三人身體強壯 中一人身體虛弱〕	
性質殊に惡きもの	九人中六人は身體強壯	五人〔中一人身體強壯 中三人身體虛弱〕	

* 身體強壯とか虚弱とか特に記しなきものはすべて身體の健康通常なるなり

(丙)以上より結論し得ることは次の如し。

身體強壯のもの、中には性質殊に惡きものもあれども、性質殊に善きものも少なからず、且つかゝるものは身體弱虚にして性質善きものよりも其性質更に宜し。又其性質惡きものも、教育の方法によりては、面白く發達せらるゝ望なきにあらず。

身體虚弱のもの、中には性質殊に善きものあれども、其性質は活動的ならず、またその惡きものは、之を教育して、頗る善き方に發達するの望少なし。

身體の健康通常なるものは、其性質多種多樣にして特にこゝに言程のことなし。

(五)心力の發達と性質

このことにつき、吾人の得たる成績は次の如し。

何れの級にても其級にて性質殊に善しと云はれ居るものは、大抵其内にて心力發達せりと云はれ居るものなりき。而して此の如く心力發達し居りて、性質殊に惡しきものは、甚だ少なかりき。

何れの級にても、其級にて性質殊に惡しと云はれ居るものは、大抵其級にて心力發達し居らずと云はれ居るものなりき、而して此の如く心力發達せずして、性質善きものは殆んどこれなかりき。

因に言ふ、吾人が此調査を爲すに當り、各級にて心力殊に發達せずと云はれ居るものの中に、往々美術に關する能力の著しく發達せるものあるを知りたり、又以て人はある一種の能力に乏しければとて、直ちに如何なる方面よりも、全く教育の望なきが如くに思ふべからざることを感じたり。

(六) 以上各項より得たる結論

吾人は以上にて(一)兒童の性質と父母との關係(二)兒童を世話する人と兒童の性質(三)親の職業と兒童の性質(四)兒童の健康と性質(五)兒童心力の發達と性質との諸項につき、吾人の研究したる成績を挙げたり。今その成績より吾人の結論し得ることを次に説かん。

甲) 以上の成績より、兒童の性質が殊に善くなり易き事情と、殊に悪くなり易き事情とを挙げれば次の如くならんか。

(一) 兒童の性質殊に善くなり易き事情

親の職業	父母との關係	兒童を世話する人の種類	兒童心力の發達	兒童の健康
學校教授	(一) 父母共在父母と同一家にあり (二) 父なきも母あるもの	(一) 父母共に世話す (二) 父又は母が世話す	心力發達宜しきもの	(一) 健康通常なるもの (二) 身體強壯なるもの

(二) 兒童の性質殊に悪くなり易き事情

親の職業	父母との關係	兒童を世話する人の種類	兒童心力の發達	兒童の健康
(一)陸軍々々人 (二)海軍々々人 (三)警察者 (四)米商 (五)會社員 (六)辯士 (七)工事受買者	(一)父母なきもの (二)母なきもの (三)實母なくして壯年の繼母居る場合 (四)他人の家に在るもの (五)父母共に存するも職務のため不在なるもの	兒童を教育する意見と權力となき書生執事等兒童を世話し居る父母共に兒童を世話せず殊に母が兒童を世話せざる場合	心力の發達宜しからざるもの	(一)身體強壯なるもの (二)身體虛弱なるもの

以上各項とも善き事情にある兒童は、其性質惡くなること少なく、又以上各項とも惡しき事情にある兒童は、其性質善くなること殆んどこれならん。而してそのある事項か善き事情にあり、ある事項か惡しき事情にある等、兒童の生活する惡しき事情か、錯雜するに従つて、其兒童の性質は、將來善くなるか惡しくなるかは、始より豫言し難からん。然れども兒童か以上何れの事項にても、善き事情の下に生活し居れば、それだけに其性質幾分か善くなり易きものにて、其何れの一事項にても、惡き事情の下に生活し居れば、それだけに其性質を幾分か惡するに足るものなり。

(乙)終りに以上の成績より、教育者の特に注意すべき條項を次に擧げん。

(一)親の職業と兒童の性質と關係あることはすでに説ける所なり。又兒童と父母との關係、兒童と兒童を世話する人との關係、兒童心力の發達、兒童健康の狀態が特別なる事情にあるものは、其性質に特別

の影響を受けることもまた吾人がすでに説ける所なり。此故に實際教育の任に當り居り、教育の成果を得んと欲するものは、先づ自己の管理せる児童につきて、其親の職業は如何、又其他の事項につき特別な事情に居るものなきかを調査せざるべからず。而して若しある事項につきて特別な事情に居るものあらは、それより性質上如何なる影響を受け易きものなるかを知り、之に應じてその児童の特性を發達し、また之を圓滿多面に教育することを計らざるべからず。また此の如く特別な事情にあるものにつきては、教育者が家庭と協力して、その事情より性質に及ぼす、善き影響を減殺せず、惡しき影響は成るべく之を輕くすることを務めざるべからず。

(二)何れの級につきて調査するも、すでに擧げたる各項とも惡しき事情の下にあるものは甚だ少し而して多數の児童は一二の事項の下にあるも、其他の事項につきては、特別なことなく、即ち其事情より受くる影響により、初より性質の善惡を定めらるゝにあらずして、教育者がその児童を教育する方法により、その児童の性質の將來の善惡は定まるものなり。此に於てか教育者は自己の責任の輕からざることを思ひて熱心に、教育の成果を擧げんことを計らざるべからず。

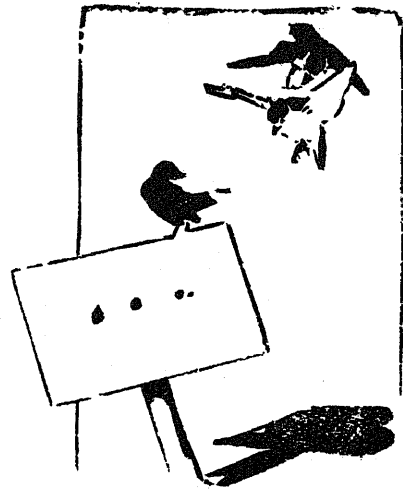
(三)吾人は人の性質の往々變るものなることを知る、殊に小學及尋常中學の生徒の性質は、頗る變り易きものなることを知る、吾人の調査せる所によれば、小學にある間は其性質頗る惡し、と言はれしものが、中學に入りて其性質頗る善しと言はるゝに至りしものあり、また小學にある間其性質頗る善しと

言はれしものが、中學に入りて其性質頗る惡し、と言はるゝに至りしものあり、此故に小學及び中學の教育に従事し居るものは、自己の管理せる生徒中に其性質頗る惡しきものあるも、かゝる生徒の凡ては中學を卒ふるまでに同性質を保するものなりと思ふべからず。また其性質善きものあるも、かゝる生徒の凡ては中學を卒ふるまで同性なりと思ふべからず。要するに小學及び中學の教育に従事し、生徒の性質を善くすることを計り居るものは、決して一時の成果に眩せず能く將來を考へ忍耐勵精之に従はるべからず。

向性質變換に關しこれまで吾人の得たる經驗によれば、勇壯敢爲の氣に富めるものは、初め其性質惡しと言はれても、後に善くなるものあり。又此氣に乏しきものは、初め其性質の善しと言はれても、後に惡くなるものあるが如し。これまた實際教育に従事せるもの、注意せすんばあるべからざることなり。(四)學校にては、多數の兒童を一團として教育することなれば、其一團中に性質善き兒童と性質善からざる兒童と混同し居るは固より自然のことにして、またかくありてこそ教育者の勞力をも要するなれ。而して一團中に數人の性質惡しき兒童の混同し居るは、必しも其一團の風儀を惡しくする所以にあらざるなり、思ふに教育者が教育の方法に注意して、性質惡しき兒童の勢力を盛ならしめざる様にせば、其兒童のために他の兒童の教育を妨げられざるのみならず、其兒童をも善き方に導き得られざることなきにあらざるへし。而して、一團中割合に多數の性質惡しき兒童ありて、然も教育全體の成果を挙げ得る

もの、これ即ち大教育家にあらすして何ぞや。此の如き教育家たらんことは、能く兒童を知らす各兒童の特性に通せざるもの、企及すべきことにあらざるなり。吾人は我邦の教育家か能く兒童を知り、兒童の特性を研究して、教育の有効なる結果を擧げんことを切望するものなり（おしまひ）





子どもの教育

大坂佐友家
庭教師米國人
リチャードソン嬢

本篇は本年四月發行の博愛社月報に在りたるを大
阪保育會雜誌に轉載したるもの、未だ完結せざれ
ども、有益のものと認めれば、更に轉載する事
とせり。

茲に記すは三月十一日大阪基督教青年會館に催されし婦人矯風
會母の課の大會席上佐友家の家庭教師なる英國婦人リチャード

ソン嬢が演ぜられたる講話の筆記にして原語は英語を以てせら
れたるを當日通譯の衝に立たれしウヘルミナ女學校教師西野貞
子姉が本社の請を容れ更に嬢の草稿に依り逐一譯を施されたる
ものなれば本社は其正確なるを信じて疑はず只之を印刷に附す
るに當り編輯者に於て多少の更訂を加へたる所なきにあらず故
に若し誤謬の點あらばこは編輯者の非なり讀者之を諒せられ
んことを最後に本社は西野姉が煩を厭はず本社のため其勞を執
り給ひしことを謹謝す

●小兒の監督教育と言ふ問題は確かに婦人の身に
最も近く横はる所の大問題の一つて御座います、
即ち如何にすれば小兒の最も高貴なる能力を發揮
するやうに育てらるゝで有らうか、如何にせば悪
しき傾向を正しい方に移らしめ、如何にせば其智
力を適當に増進する事が出来るで有らうか、又健
全なる精神は必ず健全なる身体にあると云ふ其大
切なる身体の健康は如何にして保護せらるゝで
あらうか、と云ふ事で御座います

それで今日御話し致します此題の要點を

一 德育、二 智育、三 体育、

の三つに別ちます。斯様に三總目に別ちましたけれども、此の三つのものは密接なる關係がありまして、瞭然相離して獨立させる事は六つかしいので、御座います、能く例證に擧げらるゝことで御座います。若し此三の中他を缺いて一つのみ發達致します時は、其天性の調和を害せられて、一方に偏した圓滿を缺いた不權衡な人となるので御座います、先づ德育から始めませう、

● 風俗と云ふものは國々で異つて居ります、然し母なる人が其子をして榮光ある誠實なる、又禮儀ある立派な人物に育てたいと望む理想に至つては何處の何處に於ても異なる所は御座いません、又實に男女の別なく誰にも備へしめたい事であります、そうして如何にせば兒童をして此高貴なる徳

性を有する人たらしめる事が出来るでせうか、何時から此德育を始めべきでせうかと言ふ問に答へませう

「直にお始め遊ばせ」と

小兒の德育は小兒のまだ道理を辨へぬうち言葉を語り得ないずっと以前から始むべき事で御座います。

● 德育に於て小兒の第一着に學ぶべき事は從順の習慣を付ける事で御座います、世間では子供を從順に躑けると云ふ事を等閑にして居る親達がありまして、其の等閑にして過失の結果段々困難なる經驗を嘗め、自ら其罪を來して居るのを見る事で御座います、若し子供の幼い時から長上の命に服する様育てられましたならば、左程六つかしいものではないので御座います、嬰兒が生れて數週間

經て寢かせやうとして下に置きますと、抱かれて居たがつて泣きます、其時抱き上げて眠る迄搖つて寝かし付けますれば、此點に於て嬰兒は親に勝つたので御座います、親は子の泣くを恐れて服しますので御座ます、次に又下に寢せ様と致しますと前にも増してひつかります、夫れで又抱き上げます、斯く致します事度々重なる内に應て嬰兒は抱かれる事を常にして下に寢かしますと、號泣て大騒を致す様になるので御座います、之れ第一着に母たる人が意志の弱い爲めに嬰兒に我意を通させて不従順と云ふ惡しき癖を付けられたのであつて、後に之を矯めんとするに當りまして大因難の基となるので御座います、嬰兒が稍成長致して匍匐まわる様になりますと、目に見るものに觸れて遊びたがるもので御座います、其時「それに觸れ

てはなりません」と申すと小兒は未だ其言葉はわかりませんが、其語勢其言調に因つて禁止せられた事を悟るもので御座います、須磨（住友家のことなるべし）に四ヶ月ばかりになりました小犬が居りますが此犬が惡戯を致します時叱りますと能く私の言葉を悟ります嬰兒小犬に勝るとも劣らぬ才能があります。

●又小兒を御呼びになり又小兒に御話をなさる折直ちに其言葉に應じて來り、又答へをなさぬ事があつて御座います、其時皆様の内大變心を痛め御子さんを御責めになります、實に其責は皆様にあるので御座います、小兒が幼き時より直ちに命令に服して來り又答へる様に育てられて居りませんからして、自然今になつては遊戲を止めて其命に服すると云ふ事を好まなくなつたので御座

います、其他斯かる例を挙げますれば澤山御座います、此處で皆様に記憶して頂きたいのは小兒と言ふ者は屈曲し易きもの、又感染し易きものなるが故に皆様の方では常に油斷なく注意遊ばさねばならぬと言ふ事で御座います。

●彼の流れが其源を流れ出るに當りましては何れの方向にでも容易くうねり流れ行きますが、一且水量が加はり水勢が強く成ました上其進路を遮らんとするには大工事を起さねばならぬ様になるので御座います、皆様確乎とした御決心を遊ばしませ、小兒は正義の念に敏捷なる者で矛盾せる事又不確實な事を憤る者で御座います、皆様の御心動搖常なく其言行に矛盾が有りまするなれば、小兒は直ちに夫れを觀破して逆さまに利用するに至ります、元來確としたる仕向けは不親切ではな

く深切で有ります小兒でも大人でも國民でも弱き不確實なる姑息の規則よりは確とした正しき規則を喜ぶもので御座います、私が此點に就て繰返しくりかへし申上ます譯は前に申した小兒をして必ず命ぜし事を行はせ從順を強行せしめると言ふ事は皆様に取りに随分厳しい酷な事と御考へになつて御實行が六づかしからふと存じますからで御座います。

●一体御國の御婦人はお優しくて、自分を捨て、屈從なさると云ふ様な習慣が強く入らせられるから、御身分の御子様にも此命令を強行おさせなさると云ふ事は出来なさらぬかと思ふので御座います、これは大切な事で御座いますから何卒私の言葉をお信じ下さい、直ちに命に服させ躊躇なく異論なく從順に服させる事は決して不深切

でありません、小兒が此點を學び得ましたならば、德育の訓練上最大要件を學び得たので御座います、次に無私即利己心のないやうに躰ける事は從順と同じく大切で御座います、小兒の中には天性利己心の強いのが御座ります、このやうな發芽の顯はれました時は早く矯正せねばなりません。

●先づ遊戲の場合に於きまして自分のみ遊ばずに他の友達と交代して遊ぶとか、又は他人の爲に自己の願望をも喜んで捨てること云ふ様に學ばねばなりません、而して其遊戲も歴しく温順にするやうになさしめる事で御座います、小兒が獨り育ちますと皆様の嫌になる我が儘な性の發達する傾きのあることは間々あるもので御座いますから、出來得る限り多くの小兒と共に遊ばせまた其遊ぶ友は餘り目上の小兒でなく同等位のがよろしう御

座います。

●嘗て英國の大公爵ウエリントンと申す方が、

ナポレオンに勝つたのはエドンの遊戲場で勝つたのであると申されました、エドンと申しますのは私の國英國の有名な男子の學校で御座います、此言葉はウエリントン公が小兒の共同遊戲と云ふものは小兒をして勇敢ならしめ、無私ならしめ、己の安逸快樂を求めざる様、學ばしむるものであると云ふ事を認められたる事を云ひ表はして居るので御座います。

●私は又趣味方を作つてする遊戲に重きを置くもので御座います、彼のクリケット、ベースボール、また鞠蹴のやうな遊戲にはそれ／＼其組長と云ふものがありまして、小兒が先づ其人に服して其命に従はねばならぬ事を學びます、次には己一個の

榮譽を求めずして其味方の益を計り、其味方の善からんことを求めねばならんと云ふ事を學びます。

●この外誠實 行爲を正しくすること温和、禮儀、等の徳育に就ては今多く茲に申上るまでもなく、皆様既にこれらの事の第一に大切である事を御承知で在らつしやいますから、只申上たいのは「直ちに御始め遊ばせ」早過ぎて始め遊ばす事が出来なさらぬと云ふ事は決して御座いませぬ、皆様の内には既に御承知で在つしやる方も御座いませうが、こゝに母なる人や教師の心に書き置くべき言葉が御座います

「行爲を蒔きて習慣を獲れ習慣を蒔きて品性を獲れ品性を蒔きて運命を獲れ」

と云ふことです。

●禮儀に就て少し申上げませう、私は何れの外國

人でも御國へ参りまして、第一に感心いたします事は御國の方々の常に變らぬ丁寧な禮儀に在りなされることであると思ひます、然るに今や種々新しい風俗の採用せらるゝに連れまして、多くの方は此美しい禮儀が粗野に流れ無禮になりはせぬかと云ふ虞れを抱いて居らるゝ事と思ひます、また實かゝる心配をして入らつしやる方が澤山にありなされると云ふことを承りました、近代教育に従事して居らるゝ方は此の點に御注意あつてかゝる弊風に流れぬ様御盡力なさらねばならぬと存じます教育上これ程妨げになるものはありません、これ程教育の進歩を遅からしむる者はないので御座います、私が常に目撃するので御座いますが西洋で非常の無禮になることが御國では大層丁寧なる事となり、また御國で無禮になる事が西洋では反

て禮儀ある事となるやうな相違がありまして、それがため種々誤謬を生じ怒つたり怒られたりするので御座います、然し何處如何なる人に應用致しましても決して誤謬の生ぜぬ禮儀があります、即ち長者を敬ひ權者を尊び、病める者弱きものを助け勞はり、不具者を見て笑はざること、誰と應答致しますすにも丁寧なる言葉を使ふ事など、かゝる善き行爲を禁ずる國風や又厭ふ國民は決して御座いません、此様な禮儀は早くから御躰になるのが肝要で御座います

●此處で懲罰のことを申し上げるが適當と思ひます、子供が悪戯を致しました際に施します罰は、これこれと豫一定するとは出来ません、或る子供が大變感じます罰も、他の或る子供には少しも功驗がないと云ふやうなことが御座います、罰

は大に其子供の性質に關係するので御座いますから、皆様は平常御子様達の御性質をよく注意して御研究遊ばすならば、自然其場合場合に應じて適當の懲罰を加へ給ふ事が出来ようと存じます、古言にも「鞭を惜しむものは其子供を損ふ」とありまして、多くの人が子供を矯正する唯一の道は過失を改むる迄、其子供を鞭つ事であると教へて居りますが、私はこんな殘忍な方法に賛成は出来ませんので、もつと深切に、もつとやさしく、同情の方法を以て矯正する事が出来やうと信じます、元來小供は自分に受くる罰が公平なまた正當なものであると認めますならば、決してこれを恨むやうなことなく悦服するもので御座います。

●私が経験した中に非常に六つかしい怒り易い人の小兒が御座います、だいをこね出して泣き

出しますと道理を解いて聞かせても、賺かしても宥めても、却々聞き入れませんで、皆が機嫌をと

りますればとりまする程愈々益々號叫すると云ふ風で皆持て余して居りました、斯様な惡癖を其儘にして置くことは出来ません、其處で私は其家の人々に「以後その子がだいをこねて泣き叫ぶ事があつても打ち遣つて置いて誰も取り合はぬ様になさい」と忠告を致し其事を實行致しましたが、是は非常に功果があつたのであります、これはその子が自分がだいをこねると皆が困つて大騒をして機嫌をとつたりするものですから、自分は家内中で大切な者であるえらい者であるといふ様な傲慢不遜な考へを起したので御座います、後にはいくら泣いても怒つても誰あつて顧みて呉れるものがないので泣き損怒り損と云ふ事を悟りまして、

遂に自制するやうになつて全くその癖が止んだので御座います。

●又小兒を罰するに最よい武器の一つはその行ひを嘲笑する事で御座います、小兒はその過失を嘲笑されからかはれるを大層厭ふもので御座います、嚴しく譴責するよりも早くその過失を知つて改める様になります、私は曾て一つの罰を案出いたしました、それは涙の記とでも申しませうか、一冊の帳を作りまして子供が泣きます毎に何故に泣いたかと云ふその由來を書き記して置きまして後にこれを小兒に示して嘲笑致しましたすると、小兒は大層それを耻しく感じて改むるに至つたので御座います、今では此のやうな帳面を用ゐるに及ばなくなつたので御座います、遊戲中に憤悶したり、泣いたり致しました節には、其玩具をとり

あげて一二週間程も其を以て遊ぶ事を禁ずる様に致すが宜しう御座います。

●私は一日に二度同じ事を云はねばならぬ事が御座いますと其子は其夜少し早く寝なければならぬことに致して居ります是は健康上に害のない善い方法と存じますから皆様に御奨め致します。

實驗上の育兒法(ついで)

瀬川昌耆君述

鷺口瘡俗にしろした

▲授乳後の注意 乳汁の飲ませ方がお解りになつたら序に乳汁を飲ませた跡の注意を述べて置かう生兒に乳汁を飲ませる時は先づ母親の乳首消毒を忘れてはならぬ、乳首を消毒したら乳汁を與へ、乳汁を飲み畢つたら丁寧に能く生兒の口内を清潔

に消毒しなければならぬ、斯く申せば定めし何と云ふ面倒な事だらう一々開く手数懸る事は出来ないと不平な方もあらうが、此の大切な消毒を實行せぬと往々生兒が鷺口瘡俗にしろしたとて恐るべき口内の病氣を發するのです、生兒が此様病體になつたら夫れこそ大變、ナカ／＼授乳の都度消毒の面倒位では濟まぬ、此時に至り「最初から消毒を怠らねば宜かつた、爾うすれば生兒にも斯んな不愜な思ひをさせずも宜かつたに」と後悔しても後の祭りとなりますよ

▲鷺口瘡は一種の黴菌 一体鷺口瘡は一種の黴菌病で夫れが蕃殖して口内から咽まで一面に白い厚い苔が出来て小兒は遂に乳を飲むことが出来なくなつて段々衰弱して仕舞ふのであるとして烈しくなると食道から遂には胃の腑までベタ一面に蔓

延する、斯うなつては醫藥の力も追はぬ事となつて仕舞う故、必ず安生なる策として前に述べる消毒を嚴重にせねばならぬ、此の病氣は殊に初生兒に多く、時には老人など勞衰性に陥ると斯る状態になり頗る苦惱することもあるものだが先づ是は多く小兒病と見做して居れば親達の誤ちは尠ない

▲發病の誘因物 此の恐ろしき微菌の發生する原因は、授乳の儘で置くと生兒の口腔に必ず幾分か乳汁が残つて居る、それが最も發病の誘因物となるので殘留の乳汁は次第に分解され、不潔に傾いて來ると微菌は其處を的つて發生する、之れが即ち爲口瘡と名の付くので斯んな順序に病勢が進むのである、處で授乳の際母親の乳首を消毒し、又授乳後生兒の口内も嚴重に消毒して置けば不潔を醸す憂ひもなく毎時も健康なる口内粘、膜

には發生する事が出来ない、手數を懸けたり、面倒を能くした効顯は此の通り靚面に現はれ、聞くも忌はしき「しろした」坯は少しも知らずに恙なく發育するのである

▲消毒の方法 併し幾ら消毒をお勧めしても其の方法を知らねば實行が出来まい、此の方法は勿論素人に出来る雜作ない事です、重曹は何處の藥種屋にもある價の廉い藥品で誰も御存じであらうが之れを十倍位に水に溶かして筆へ含まして口内に塗布するか、又は其の中へガーゼか又は木綿の布を浸し、重曹水を充分に含ませ、其の布を母親の右の食指へ纏て、生兒の舌から總て口腔を丁寧に拭いてやる、一度で取り切れずば二度も三度も拭ふが可い、爾うすれば殘留せる乳滓も奇麗に拭取れ藥力のお蔭で跡の不潔になる憂ひもないから驚

口瘡も出来ないのです、之れに使用する藥はアルカリ性の物が可いので重曹が無くば硼砂を薄く水に溶解し、是で前の方法にやらば可い、若し一旦瘡口瘡が發生したならば矢張り重曹水でも硼砂水でもよいから度々其處に塗りつけて拭き取るやうにするがよい、それでも口内に附着して居るやうなら今度は三百倍位なカマンガン酸加里水でお試しみなさい、是れなら清潔になる筈だが一つは拭き方にも熟練する事が肝腎であります

後の入浴と臍帶

▲百日間は入浴せしめよ 初湯の済んだ其の翌日より決して入浴を缺いてはならぬ、生後發育上入浴は頗る關係の深いもので母親か又は保育者の手が充分ある家庭では凡そ一ヶ月間位之れを實行する事が小兒の爲め能き衛生法である、左もなく

ば切めて生後百日間位は必ず勤めて入浴させるやうに仕たい諺に「小兒は湯を浴はせる度に肥る」と云ふのも入浴の必要を説明されたものです、斯く入浴の大切な理由は小兒は皮膚より脂肪の分泌する事が繁く之れを奇麗に洗落さぬと不潔を醸して皮膚へ濕疹が出来る

▲頭髮を清潔にせよ 殊に股間、腋窩、襟首等は脂肪分泌の爲めに毎日注意して丁寧に洗つて、

拭いて能く乾燥やうにしないと腐爛を生じて兎角生兒の機嫌の悪いもの、腐爛てから驚いて手當をしても生兒には夫れ丈け不惑な思ひをさせる故、斯うならぬ前に注意を致すが可い、夫れと今一つ頭髮の注意であるが、入浴の都度石鹼で洗ひ清潔にししなければならぬ、頭部は殊に分泌の繁き故萬一不潔の儘に委し置かば夫れへ塵埃と分泌の脂

脂肪と一ツに凝結り、遂には痂皮の如くなり、夫れは容易に清潔にならぬものです、世の親達は分泌の脂肪へ塵埃が附いたとき、之は容易に清潔にならぬから除去するには生兒が痛いだらうから不惑だ」と姑息の洗ひ方をして置く」と其處が甚しき痂皮となつて益々夫れが固着し、何時かソコへ濕疹が發生して段々蕃殖する、頭部に濕疹のある生兒等も一ツは頭髮を清潔に石鹼で洗う事を怠つた爲めに出來たものもあるのです、此邊の不注意は母親の手落ではありませんか

▲臍帶の大切な次第

臍帶の處置は産婆の取扱うべきものであるが、若し此の方法に過誤があつたら生兒の生命に危険を及ぼす事往々あるので「臍の病ひは危険なり」とは初生兒のため忽に出來ぬ事と心得ねばならぬ、臍帶の落ちる時は跡へ

傷が出来るが生兒は夫れが爲めシクシク泣いて機嫌が悪いものです、デ跡へ出來た傷は全く普通の傷と同じきものなれば傷として取扱はなければならぬ、故に其の傷所へ不潔な手や又は不潔なる布の觸れぬやうになさい、此の傷跡の大切な事は云ふ迄も無く丹毒と云つて非常なる發熱をなして遂には仆れる恐ろしき病氣や、夫れから破傷風等を引起したらかよわき生兒は逆も此の病苦に打勝つことは出來ず憐れにも生命を縮めるやうな事になるのです、其他傷跡から出血するのも宜しくないので、臍帶が落ちたら深く周密なる注意をなさねばならぬが其の處置法として實驗上の説明を次ぎに掲げて御參考に供しやう

臨時客來料理

石井泰次郎

吸物

包たまご、もみのり

吸物の汁の拵方は、堅魚煎汁四合につき、醬油
一勺八才、みりん酒一勺二才、しは五分餘の割合
にして、先づ煎汁を鍋に入れ、煮立て、醬油を
一勺二才ほど入れ、少し煮て、次にみりん酒を加
へ、次に鹽を入れ、さて味をこゝろみ醬油を六夕
ほど加へてつくるなり、包玉子の拵方は、美濃紙
を二枚に切り、四角形に切り茶碗などの中に敷て
《包むやうに紙を入れ置くべし》其中へ、玉子一つ
を割て入れ、紙の四方をよせて、紙捻にてなほね
て、鍋に湯を煮立てたる中にそつと入れて、湯煮
して、かためて、取出し、紙を取り、椀に盛るなり

もみ海苔は、淺草海苔（其他の乾海苔にても）火上
に炙りて、手にて揉み粉として、

さて椀の中へ玉子一つ入れて汁をつぎいれ、上
より海苔のもみたるをはらりとふり入れて、蓋を
して出すべし

中皿

酢むし鰯、大こんしほり汁

鰯をかるし身にして、腸のところをすき取て、骨
を毛抜にてぬきて、酢と鹽とを《酢一合につき、
鹽六匁余の割合》合せたる鉢に魚を入れて、暫く
漬け置き、さて取出して、蒸籠に竹の皮を敷きて、
其上にのせ、鍋にかけてむし《十五分間》十分目の
時に、生酢を、蒸籠をかるしてかけ、再び鍋にか
け五分間むすべし
大こんの皮をむき、山葵をろして、すりおろし

て、汁をしほり、其汁へ醬油を加へて（一合のおろしに、醬油二勺合する）かくべし
皿へ、鯖を盛つて、おろし汁を、上よりかけて出すべし

小皿肴

湯引鳥賊、いり菜

鳥賊を洗ひて、ふくろを切りてひらき皮をむきて細く切り、鍋に湯を煮たて鹽を、水一合に鹽五匁入るゝ入れたるに鳥賊を一寸入れ、直に箸にてとり上げて水に取りて、すぐに取上げ、小皿に盛るべし

いり菜は、鹽漬にしたる、菜漬を能く水にて洗ひて、それをよくしほりて、細かにきざみて、鍋に入れ、醬油を加へて、七色唐がらしをも加へて、共にいりつけて取上ぐるなり

四十
菜の 一かぶに醬油一匁餘、七種蕃椒一匁内の三色の割合にてよし

貞一の日記

（承前）（明治廿六年五月）
（拔萃）（月 出生男兒）

その 母

七月六日 母さんはんはときけば、エンく、といふエンく行つて何するのととへば、フ、フ、と口拍子にて雁の歌を、調子を正しく歌ふ、夕刻父母と、下田氏を訪ひ、四つばかりの可愛らしき女の兒、遊びに來て居られたり貞一は喜んで、御友達にしようとし、一所に母さんに、抱かれようと、自分先つ母の膝に腰かけ、御友達の手を引張る、先方はまた恥かしがりて中々傍へよらず、奥様繪端書など出して、もてなして下されしに他のは目もくれず、電車のを

て、直ちに電車くといつてよろこぶ

タスキ、ウサギ、リス、を繪本にて、云ひならふ。

七月八日 此頃は、語尾によくンの音をつけてい

ふ、サンボン(散歩)ウンドン(運動)チヨンチン

(提灯)ウンコン(大便)等の類なり

七月十一日 今日大學へ 天皇陛下行幸あり、安

田さんに連られて拜しに行く、往復とも歩く。

井上牧師來訪せらる、イヌ先生くといふ井上

先生といふつもりなり。

七月十三日 朝父さんと、馬術練習所へ見に行き

歸宅後、御馬の口はときけば、口をバクくさ

せる、馬の口を動かしたるを觀察したるなり

『黒い御馬』と云ふ語を覚えたり。

七月十四日 父に伴はれ、生駒氏を訪ふ、八重子

さんと(貞一より小ざさ兒)ビスケットをとりあ

ひす、先方はずんく喰べても貞一は喰べつ

けぬ故、たいおもちやにして居る。

外へ出て、家にかへりたくなると、雨コンく

カヘンといふ、何日か、雨の降り出しそうにな

りし時、安田さんが、雨が降るといけなから

歸ろうと云ひしを、覚えて居りしなり、

七月十五日 父と馬術練習所へ行き、馬に向つて

御馬頂戴と、手を重ねまたダツコくなどいふ

車を見れば、ガアくのとつてといふ。

今日は土曜日とて、學校より早く歸りし母晝寢

よりさめしばかりの貞一の傍へ到れば『カフサ

ンオウチ』といつて嬉しそうに抱きつく。

七月十八日 父と小原先生へ行つて、体重を計つ

て頂く、一〇三二〇、あり

コチロン、オユヤ、ミヅ、エンコ、クワシなど

「い、ならん、」

七月廿一日 朝母と散歩に出つ、途に四才ばかりの女兒、竹の棒を持つて、遊び居れり、貞一傍により、なつかしげに手を出す、女兒はイヤガツテ泣き出す、貞一はダツコ〜といひ、又ようじ頂戴といつて竹棒をとりに行く、小揚子より連想して、竹切を揚子と思ひしなるべし。

七月廿三日 外で遊んで居つて、家に歸りたき時は『オウチカヘレ』といふ、自分より年長の子供を見れば、『大きいあかちゃん』といふ、小さい子供を見れば、直に其傍へはしりゆき、顔を其の子の顔に、さしつけて、一所に遊ばんといふ様な様子をなす、先方の子は、見馴れぬ子に、余りなつかしそに、手をとられたりするもの故、氣味悪るさうに、逃げ出す。

七月廿四日 ふと君が代の『さ、れいしの』といふ所だけを唱ひ得たり、モーペンといふ、もう一遍のつもりなり、朝顔をアサゴンといふ。

七月廿五日 此頃は門の内の段々を、上り下りする事を何よりの楽しみにせり。

御隣の方(狎の名)は、いろ／＼藝が上手なれと、うちのボチ(家によく来る黒い小犬)は何もしらぬから、教えておやりといへば、何を思ひ出したのか、ゾーホン(象のついでる繪本)といつて取つて来て、庭の溝板の上にひろげ、トラ、ムーンなど、繪をさして一々ボチに見せる、ボチは、面白がつて、本をくわへて、引張りまわさうとする、貞一は熱心に、教えやうとする西洋の繪葉書の畫題ともなり相な幕合にて、随分大騒なりき(以下次號)

婦人と親族法(續き)

太田 英隆

第三節 婚姻の無効及び取消

無効と云ふのは其目的としてゐる效力に關しては法律上全く存在せないので、取消と云ふのは法律上存在し且其效果の發生しまするも、ある瑕疵あるために其行爲を取消し得べきものであります、我民法は、法律行爲に就いて其成立しないものを無効と云つて、取消すことの出来るものを取消と云つてゐます。

第一款 婚姻の無効

第一、當事者間に婚姻をする意思なきことと

前にも申上げました通り、婚姻には男女の承諾がなくてはなりません。それでありますから男女間に婚姻する意思のない婚姻は、全然無効なるべ

きは理の當然であります。例へて云へば、當事者では正式に婚姻届を爲しましても、それが人違であるとか、又精神喪失中であるとか、又暴力を加へて無理に届書に署名せしめたやうな場合は、その婚姻は無効となるのであります。

この人違と云ふことに就ては中々面白い議論があるのです。全体人違と云ふは、人自体に關する錯誤であるか、又人の品格に關する錯誤であるかと問ひますと、私は人自体に關する錯誤即ち有形的人格に關する錯誤でなければならないと存じます。解り安く云ひ換へますと、松枝と云ふ甲女と婚姻する意思であつたのが、梅野と云ふ乙女と人違ひをしたと云ふやうな時は、勿論無効でありませんが、若し之れとは違ひ、健康な金持の女と信じて婚姻した所が、豈圖らんや其女は病身で貧乏で

あつとすると、この婚姻はどうなるか。こゝが議論の別れる所でありまして、解釋の爲やうでとんでもない事が出来たします。二三年前でありましたが、ある人が平民だと信じて婚姻した所が新平民であつたので、遂に裁判沙汰となりまして離婚となつたと記憶してゐます。私は之れに反對なので、人の品格に關する錯誤は婚姻の無効を惹き起すことはないと思ふのであります。

第二、當事者が婚姻の届出を爲さざりし時、

婚姻は届出でるのを以て一要件としてありますから、其届出のないときは無効であると云ふことは火を觀るより明であります。

第二款 婚姻の取消

第一項 絶對的取消の原因

この場合に婚姻を取消することを許すのは、婚姻

關係の繼續が直接に公けの秩序に害があるからであります。

(一) 取消權を有する者、

一、當事者

二、戸主

三、親族

四、當事者の配偶者又は其前配偶者、

五、檢事

(二) 婚姻の取消原因及取消權行使の期間

一、不適齡なる場合

(い)、不適齡者以外の者より取消を請求するときは、この場合には取消の原因不

適齡なるに存するものなれば、取消權者は不適齡者か適齡に達しない内に其權利を行使せねばならない

(ろ) 不適齡者が取消を請求するとき、

二、重婚の場合

三、禁制期間内の再婚

四、相姦者の婚姻

五、親族間の相婚

以上一より五迄の場合に於きましては、公の秩序又は善良の風俗に反するから、民法總則の原則によりますと無効となるべきを、單に取消し得べしとしましたのは、畢竟婚姻を尊重したものに因ると云はねばなりません。

第二項 相對的取消の原因

相對的取消の原因の場合に婚姻の取消を許すのは、第一項の場合とは違つて一私人の利益を基としたのであります。それでありますから、これを取消す權を有するものは、其婚姻によつて利益を

害せられた者でなくてはなりません。

一) 保護者の同意を得ざる場合(民法七八三四條)

(い) 同意を爲す權利を有せし者が、婚姻のあつたことを知りたる后、又は詐欺を發見し若く

は強迫を免れた后六ヶ月を過ぎたる時

ろ) 同意を爲す權利を有せし者が追認を爲したること、

(は) 婚姻届出の日より二年を経過したること、

(二) 承諾に瑕疵ある場合(民法七八五參酌)

(三) 婿養子縁組の場合、茲に一寸申しておきます

が、婿養子縁組と云ふのは、他人の子を養つて已の子とすると同時に、女子と配合せしむるもので婚姻と縁組とは彼此互に條件を爲すものであります。世人が時々縁組と婚姻とを混同することがありますが、法律上決して同一視すべき

ではありません。

今本節を了るに及びまして、御参考の爲め婚姻取消申請の書式を左に附記します。

○婚姻登記取消申請

(人達其他の事由に基きし場合)

明治参拾七年五月参日届出たる婚姻は無効なるに付別紙證明書を差出候間該登記取消相成度及申請候也

兵庫縣城崎郡香住村ノ内香住村参拾七番地
平民學生

夫 太田 英 隆

明治拾参年参月拾九日生

京都府下京區三條通松原上ル拾五番地月主

中村花之助長女士族學生

妻 中村 梅 子

明治貳拾年五月参日生

附記、證明書は人達其他無効の事由を記し双方之を認めたる署名捺印せしもの

○婚姻登記取消申請

(裁判確定の時其訴を起すもの)

明治参拾年八月二日届出たる婚姻は明治参拾八年拾月貳九日無効(取消)の裁判確定に付別紙裁判の謄本提出候條婚姻取消相成

度及申請候也

神奈川縣横濱市松富町八番地官吏

(訴訟提起者) 吉田 八 郎

明治拾年九月拾日生

第三項 取消の效力

元來取消されたる法律行為は、法律行為の通則に依りますと初めから無効なのであります。婚姻の取消の效力は初めに遡らないことになつてゐます。さうしてこの規定は、當事者の關係に於きまして、子の身分に關しても、又當事者が善意なるときと惡意なるときとを別分せずして適用されます。

婚姻の取消は、親に付ても子に付ても取消されるまでは法律の效力がありますから、相互に扶養を受ける權利、相互に相續するの權利を保存すべく、子は夫婦に對し嫡出子として一切の權利を取

得します、又夫婦の財産關係に於ても婚姻の取消
あるまでは法律上の效力を有しますから、夫婦相
互の間に於きましては其爲したる夫婦財産契約は
取消までは依然其效果を生じ、夫婦の財産關係は
總べてこの契約に依つて定まります。

短歌

眞宮起雲

哲學大學にありし弟不治の病を得十一月十三日
大學病院にありて身まかりければ

はらからの冷たき駭さすりては冥府のかなたに想
ひ馳せ泣く
黄泉なる臺に父と語るらむやせたる兄のさだめう
すさを

あゝなどて息あるうちに一度の笑まひをこそと唯
泣かれぬる
老いませし母をのこして冥府に行く汝が歌永久に

我を泣かしむ
弟の骨を抱きて歸るさの夜瀛車のこまど月ひや、
かきこ

新。年。の。歌。切十二月十五日

投稿所 伊勢白子局區内

みどり短歌會

撰評者眞宮氏にさはることありて、今回は應募の和歌を載する
こと能はず、何れ次回に掲載すべし、次の課題は右の如し、心
ある人の奮つて投詠あらんとを望む
記者

フレーベル會俳句端書集

- 一、課題 當季雜吟一人十句以下
- 一、締切 毎月二十五日限り
- 一、披露 翌々月本紙上
- 一、賞品 三光には景品を呈す

一、撰者 當分本會の撰とす
一、投稿 本誌購讀者は何人にてても投吟する事を

得用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)
住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛
にて送らるべし

埼玉縣入間郡芳野村

フレール會俳句掛

鹽野奇零宛

第十七回俳句端書集

馬喰の馬買に行く小春かな	大分	春	月
維摩忌や關白の幽薄寺に入る	同		
空寒し賤が小家の根深汁	同		
炭焼の小五郎孝の譽れあり	同		
庭もや、青葉に交る紅葉哉	長野	曉	霞
刈りし田の門に淋しき案山子哉	同		
黒き塀白き土藏や夕紅葉	同		
稻の香を牛に糞みたる小春かな	仙台	一	瓢
松葉搔く唄の透るや小春風	同		
茶袋を吊す垣根や歸り花	同		
月にさわる赤城風や葱深汁	同		

秋雨や駄馬に鞭打つ暖道	本郷區	ゆかり子
洛中や月に鑑の十萬家	同	
足跡に沙漁潛みけり忘れ汐	同	
早乙女も老ひけり小田の落水	同	
何となく物の淋しき後の月	神戶	學洋
高殿に人聲もなし後の月	同	
目にあまる谷間くや龍田姫	同	
朝寒や障子にひやく白の音	同	
寒月や矢矧の橋に人の聲	同	
寒月や峠にかゝる武者一人	埼玉	白醉樓
月寒し小大五六匹軒の下	同	
寒月や野中の地藏歩み出し	同	
寒月や谷に水汲む御僧あり	同	
月寒し森に怪しき鳥の聲	同	
寒月に仰いで笑ふ狂女かな	同	
寒月や横町に立つ人の影	東京	春綾
槽の火に爺の出しけり古表紙	同	
木枯や夕日かゝりて啼かぬ鳥	栃木	さだ子
唐黍に落つる日早し秋の暮	同	
木枯や大星小星砥ぎ出して	甲洲	泉岳
會席に酔の香も立ちて小六月	大坂	きよ女
冬の月水も光りて流れけり	靜岡	樂水
物老し不二の姿や霜の朝	信州	耕村
酒さめて舟に厂聞く雨夜なか	浦和	吸月

遠く見ゆる烟突凄し冬の月
僧一人味増たく寺や初時雨
夢に見た人に逢ひたる十夜哉
道絶えて狐の穴や枯野原
鳴く千鳥雨を寒かる泊り客

三光

天、襟巻に首を縮めて網代守
地、初時雨峠半ばに日の暮る
人、砧聞きて襟元寒き夜船かな

追加

去年今年さぞな戦地の冬籠り
霜の夜や細き野道を小提灯
永き夜の基客聲なし石の音
日参や鎮守の庭の霜柱
櫓の火や麓の家の疎らにて
雲散りて石切る音や散る紅葉
寺に行く瘦せた姿や茶の頭巾

川越閑人	東京春綾	神戸學洋	無一庵奇零
近江古杉	同	遠州愛水	下總梅泉

桑港のわびずまひ(ついで)

五十

敏

子

それよりその日の定まれることをなして十二時を
迎へ、マダムに手傳ひてガスの火にての料理、朝
と同じやうなことをして二時まで働くのでござい
ます。この間に本を習ひ、質問をし、手も耳も口
も忙はしい。二時には主婦はハイスクールにゆ
き、主人は馬車を驅りて遊びにゆくのは常のやう
になつてゐます。五時まではわがグードタイム、
公園にいろいろあるさしやうと、友人を訪問しやう
と勝手なのでありますが、留主居をして、來客に
挨拶し、電話をうけなると、御機嫌甚だよろ
しいのでありますから、近頃は外出せず、ケツチ
ン大王となりて、勉強したり、手紙書いたり、花
園のそいゝあるさして歌でも口ずさんだりして居

ります。若しや戀しき人の乗れる電車にあらぬかと、階段にそつて立つて見る折もございます。浮きたる戀と嘲り玉ふか。浮世の人の知らぬわが戀、この人のために富貴も功名もすてはて、十年の辛苦、唯ゆるすの一と言に救はれたく、この人の跡を追ふてこの國まで來りしもの、わが想ひの雲桑港の朝霧と共にはるゝはいつぞ。雲にあらず濤にあらず、前途幾億萬里、恨めしきは吾身でござひます。かの人は太平洋沿岸の仙郷に客遊して居るのであります。海岸通ひの電車はこゝを通るので折々は戀しさに飛びいだすことがございます。余り天機をもらすとお里が知れますからこれはこれだけといたしませう。五時には再びストーブをしつらひポテトを煮る仕度をなし、馬を飼ひ花に灌いで居る間に主婦もかへり料理をはじ

め、また例の質問やら教習やらやつて居るうちに晚餐をすましあとをかたつけ八時にはおやすみの一言をのこして、自分の室にかへるのでございます。ガスを點じたるのち、机によりて夜ふくるまであるは瞑想あるは讀書、電車の音もとだへて、耳をすませば、大洋の浪の音かすかにきこえるのですもの、血の通ふうちは、この望郷心どうしてなくなりませう。夢は漁村にさまよひて子守を教へたとし、幻は弘城の花野を驅りて、うるはしの唱歌の聲に現にかへるなど、面白くてまだ悲しきと夜半のねざめでございます。年たけたる教へ子だちの細き聲にてうたふうた、わが幻覺に銘して居るもの一つ、書いて見ませうか。

別れほど世の中に悲しきはなかるべし悲まじと思はねどなほいと眷はしく見るごとに聞くごととに想ひやまざるア、ア、ながひれば澄める月遇ひ見てし昨日までかくまでに思はねど別れしそれよりは、なほいと眷はしくまことなる身の想ひ、この心誰れか知るア、ア、悲しきは別れなり

毎日午前の仕事一週色々にわかれて居るのであります、順序立ちてまことに氣もちよいのです。

月曜は窓拭きをいたします。

わが國の洋風建物など、窓拭を怠るために大いに雅致を殺ぐことがございますか、流石は本家筋のことゝて、それ専用の石鹼があるのですもの、それはそれは見ごとに奇麗になりますよ。

火曜日は洗濯、自分と三人前だけ、それに薬品も

器械も完備して居りますから手早くするといつも午前中にすむのです。

水曜はアイロン、火熨斗をかくるのでありますがこれは極めて容易の仕事ですこし急ぐと午前にタムを取る事ができます。

木曜は二階の掃除、主人の部屋と主婦の室と浴室と客間と便所と掃除して絨繒をしきつめたる、曲り曲りし階段をスウェプしたらそれでよろしいのであります。

金曜は階下の二間、食堂と應接の間とをするのであります。應接の間には寫真器械あり蓄音機あり主婦手製の寫真、その説明をさいて居るうちに十二時になることがございます。そこにはピアノも据えられてあるので、かなで、見ることもありますが、この指なかく云ふことをきかせんか

ら困つて仕舞ひます。

日曜は食事のあとかたつけの外全く仕事なくその日の暮かたにはいつもその週の賃金三弗をわたすことにしてゐます。

一ヶ月十二弗の下男、桑港ではまことに御恥かしいほど下等でありまして、金ほしく渡米せる身には思へば情けなくなりですが、郵券の外必要もなきことですから、露の雫も貯へて目的の一つに充てやうと思ふて居ります。

一体はじめは十五弗の約束でしたが學科を教ゆるから、月謝として三弗だけさしひくと云ふのです。そこは米國の米國たる所以、諸哉々と云ふよりいたしかたありません。面白くもなきわびずまひの愚痴ものがたり、讀者はさだめし御退屈でしたらふ。からだばかりか心までかよわくなりし吾、

やむなくんば無形の財産をつくりてそを土産としてかへることにいたしました。黄金と云ふものの中に逃足はやく、吾等風情の瘦腕にてはとても捉へることはできません。この國にては毎年一万弗づゝ新流行の衣裳に費す女、千人以上あると云ふことでありますが、羨ましいと云ふてよきか、情けないと云ふてよきか、なるほど賃金でもとらぬと、大騒するは無理でもありません。吾身など金にあらば、教へ子だちと悲しき別れをするに及ばぬのでございますが、四百四病の外の病に胸をいためて居るもの、孔子様ぢやないが、終日食はず終夜いねす以て思ふ働くに加かず、いつまでか變成女子の奇蹟を演じて居られます。今に見よ金剛那羅延身を現じて、大活躍をするぞと、憤起するときもございます。

この地はいつも春景色であります。故國は紅葉狩のたいなかゝと存じます。今霄も一瞬三萬里、教へ子だちと夢遊の遠足をいたしませう。(完)

新刊案内

家庭母のみやげ 全一冊 東 基吉編
童話

大々的豫告の出た本書は先月始め出版されたと申す事で、此頃著者東君から一部贈られた。打ち見た所和装の美本で、開巻先づ岡田三郎助氏の三色版の美麗な口繪がある。頁数は二百頁に餘り、凡べて五號文字の總振り假名附き、所々に面白い挿繪も随分多く這入つて居る。

大體の体裁はざつと右の通りで、さて中はどうかといふと、いろ／＼なお伽話の數三十七八種其他

には、所々に紙細工や、一口噺や、室内遊戲などを收めて居る。著者は豫て人の知る通り永くお茶の水幼稚園に居られて、幼児の保育といふ方に専心従事せられて居る人、吾々は此の類の書物を出ることを久しく著者に囑望して居たのである。従つて、本書 お伽話の選擇にも、多大の注意を拂はれたと見えて、大抵子供の嗜好に適當した様な、無邪氣で面白い教育的な、そして最も耳新しい類が、澤山集つて居る、勿論、我輩は著者と同じ様に教育的といへば、何でも乎でも小學校の修身の實例の様なものを許りを望むのでない。悪い例を與へないで、子供に愉快と満足とを與へてそして相當に經驗界を擴げて行けさへすれば夫が即ち教育的であらうと思ふ。之に付いても思ひ起す事は、從來教育の方の頭のない人の手になつたも

のは、随分言葉使用などが亂暴で、子供等がお伽話からして、悪い言葉使用を覚えて困るのであつたが、さすがに著者はこの點にも注意が行き届いて居る様である。

尙『母のみやげ』といふ名前も頗る面白い、かつ母さんのみやげといへば、それ菓子とか菓物とかといつて、子供の胃腸を害する様なものの許りであつたが、母のみやげとして、著者が新に子供の爲めにお話の材料を世の母親たちに與へられたのは、子供の親達に取つて、まことに親切といはねばならぬ。クリスマスや歳暮の贈りもの、さては新年の年玉として子供のゐる家庭などへ送るには、頗る適切な品だと思ふ(神田表神保町二同(や、こ評)文館發行定價六十錢)

我子の養生全 關 以雄著

前に『我子の惡徳』といふ書物が出て、一時大分歡迎せられたる彼に、著者は變れと更に『我子の養生』といふ書物が同一の書肆から發行せられしめたが。然し、前者と同じ様な考で以て本書を御覽になると大分趣……といつてよい……が違ひます。

第一 題目が内容に釣り合つて居ない様ではないかと、申すのは、本書は一般の衛生上のことを叙述したものと見られます。先づ身體の衛生と精神の衛生と道樂の衛生(?)とに分け終りに勸語の御趣旨を衛生の方から講ぜられて居る、夫が、どうも子供に特殊な場合々々に就いては、たゞ一汎の衛生を、然もバツと理論的に、書かれて居るのですから、丸で興味が乏しくなつて居ます。故に一汎の衛生上のことを知らんとするには、一論

しても宜しいでせう。

第二 文章が雑駁なことは本書に取つて第一に遺憾とする所でせう。言文一致體と文章體との雜然たる混合文だといつて宜しい。著者は、日本私立衛生會の編輯主任であるといへば、今少しこの點にも注意して欲かつたと思はれます(定價四十五錢)(發行所全所)

(牧羊評)

先 世 月一回發行

出るものも／＼星とかすみれとかのハイカラ雜誌の中に、生れ出たのは先世といふ眞面目な雜誌、其第一號は、御世と共に長へに榮えよとてか、先月三日の天長節に出た。齊田博士の日本の紅葉、池田博士の食鹽の話、斯波貞吉氏の米國の富などが講話中の重なるもので、其他發明特許彙報とか、

雜錄欄頗る豊富である。通俗に科學の智識を普及せしめる事の我國に頗る必要なる今日、通俗學術と銘を打つて眞面目に、この方面に貢獻せんとする本誌の出たのは頗る多とすべきである。吾等は家庭に向つてこれを勧める、而して小學校、女學校の先生方に向つても、大に之を勧めるのである(定價一部十五錢 發行所 神田駿河臺北甲賀町先世社)

靈 火 全一冊 眞宮起雲著

本誌短歌の選者眞宮君の澎湃たる詩想の溢れ出でたるものが、斯道の暗黒界を照らすべく、こゝに靈火といふ一冊となつて世に出たのである百頁の珍袖の小冊に、而も收むる所の短歌數百首あさ窓に劍さすりてうたひ見む正氣の歌や落ししらむめ

取るべきもはたすつべきもわれにあり天地これや皆歌の領
月の精こよひ白衣の若人とゆめに入りませはだい樹のかげ
酒さげて雲助かへるこの夕べ關のふるみち秋かぜ寒き

斯道に志ある人、一本を座右に置かば利する所
多からん（定價十五錢　發行所　伊勢稻生村みど
り短歌會）

保育者のため

幼稚園幼兒の机とその并べ方

東　基　吉　君　談　話

子供の机は小學校と同じ様に、机腰掛もつながつ
た二人掛のがよいか、夫とも兩方から向ひ合はせ
に八人位共用の卓子にして腰掛を別に一人掛のか
二人掛のかを離してするのがよいか、又排べるに
も小學校の様にならべるがよいか、或は卓子にて

四所位に八人位つゝ一團にさせるのがよいであら
うか。

これに付いて、私は机腰掛は從來の小學校風ので
なくつて、八人位共用の卓子と一人か二人掛の
腰掛を別にするといふ側のにしたいたいと思ひます。

従つて排べるにも、小學校の教場の様でなく、四
十人の一組ならば、八人つゝ一の卓子に向つて一
室の五所にかたまるといふ風がよいと思ふ。

第一今迄の様に机腰掛からその排べ方を小學校の
様にすると、どうも室が丸で教場の様で保育が個
人的よりか一齊的になる傾が免れない。夫に見た
所保育室らしくなくつてどうしても嚴格な教場の
感じがする。も一つは其爲めに室が丸で机腰掛の
ために占領せられて、他に遊戲室でもない場合に
其室を利用していろ／＼遊戲などをやるといふに

不便である。

夫を卓子にすると、室に餘程余裕が出来て廣く使へるし、見た所も如何にも團欒的である。然しこゝろとすると話などする時に、子供が横向きになつて聞かねばならぬ様なことがあつて不都合だといふ人もあるかも知れぬが、話などする時は、腰掛丈け持つて、皆先生の所へ集まらせばよい、唱歌の時でもそうである。一體幼稚園の机は元々細工臺の様なものでお書には食臺となる丈である。子供が仕事をする爲めの臺なのだから、子供が一生懸命に仕事をする、教師は其時に見回はつて、氣を付けてやれば夫れでよいので従つてそう／＼机に向つて腰掛けさせて始終教師に向はせて置かなくつても宜しいのである。たゞそうすると、光線の受け方が一定しないで、ある子供は右から受ける様

なことにもなるけれども、それとても、そう細かな事を一時間もやらして置くといふことでないから、別段心配するにも及ぶまい。夫に第一卓子にすると、机腰掛にするとは費用の點に於ても大に相違があると思ふ。

も一つ幼稚園の机の面には基盤の目の様な罫を引いてあるのだが、これも別段引かせねばならぬといふ必要はないので、元來は板を并べたり何かするのに、子供が其罫に依つてする便利の上から引かせたのだと思ふが、實際を見ると、そう／＼利用もして居ないし、又利用させる程の必要もない様に思ふ。

左の二篇は女子高等師範學校の調査にかゝるものとして先頃の官報を以て發表せられしもの、

編輯上の都合に由りて本誌に掲載するを得ざりし中、既に他の一二雑誌にも見えたれど、有益のものなれば、更にこゝに掲載することゝせり

幼兒に適切なる談話の種類及其教育的價值

●幼稚園に於ける談話の意義

幼稚園に於ける

談話は興味ある話題を用ひ幼兒を樂ましめつゝ其感情を育成し思想を陶冶して徳性啓發の資たらしめ發達に應じて漠然たる觀念を多少正確ならしめ觀察注意の習慣と發音言語の練習とを得しむる目的を以て保育者が幼兒に聞かしめ或は保育者と幼兒との間になさるゝものを云ふ故に幼稚園の談話は必らずしも常に一定の時間に於てのみなさるべきものにあらず其他の保育事項を施すに際して

も必然附随し來るを常とす、

●談話の種類 談話の種類は大別して左の三種とす

一 假作 二 實話 三 實話に假作を附加せるもの

一、假作の談話は主として寓言と童話をいふ

(一) 寓言は道德的訓誡を寓したる簡單なる假作談なり兎と龜との談蟻と鳩との談の如し

(二) 童話、寓言に比して多くは纏りたる物語の體をなし必らずしも道德的訓誡を含みたるものゝ

みに限らず時には全く非訓誡的のものもあり桃太郎、松山鏡、七匹の山羊等の如し

二、實話 實話の範圍は甚だ廣し偶發事項の談話庶物の談話事實の談話等皆之に屬す

(一) 偶發事項の談話、偶然實際に起りたる出來事につきての談話、往復途中幼稚園に於ける日常

の心得等所謂躰け方に關する談話は多く此中に含めるゝものなり

(二) 庶物の談話、幼兒に親近なる自然物及加工品につきての談話を云ふ

(三) 事實談話祝祭日につきて簡單なる説明著名なる人物及び出來事に付きての談話等をいふ

三 實話に假作を附加したるもの

主として英雄談神話等に見るものにして多少の事實に想像を附會して作爲せられたる談話を云

ふ俵藤太の話、大國主尊の話の如きこれなり

以上の種類の中にて假作の談話に國民的材料と世界的材料とあり小學校の教授に用ふる爲にはもと

より重きを國民的材料に置くを至當とすれども興味を基とせる幼稚園談話の材料としては其間にさ

したる徑庭を設くるを要せず何となれば童話に對

する趣味の相違は幼兒期にありては東西幼兒の間に於て尙未だしかく著しからざるを以てなり故に例へはグリムの童話に於て彼國教育者の見て以て可とする材料は同じく我國の幼兒に用ひても其目的を達するを得べきが如し殊に寓言に至りては我國に於て尙未だ適當なる一般的の者なきに反しイソップの如き殆んど普遍的となりたるものに在りては幼兒の趣味嗜好に適するもの頗る多きを見る

●材料の選擇 以上の種類の中にて談話の主意よりいふ時は修身的敎訓を主とする者あり庶物の智識啓發を主とするものあり寓言童話神話英雄談事實談話の如きは専ら前者に屬す後者に屬するものは専ら日常幼兒の觀察する事物につきて偶發的になし或は上述の談話中に顯はるゝ事項につきてなすを可とす例へば隨時庭園内の花實禽獸魚蟲等

につき或は桃太郎舌切雀の談話に於て桃雀等につ
て特に簡單なる觀念を得しむるが如し故に童話の
種類を採擇するに際して必ずしも修身的訓誡の一
面にのみ偏することを避けこれによりてまさに幼
兒の感情思想の全班を育成陶冶せんことを力む可
きなり寓言童話等の適切と認めたるものを採擇し
大凡幼兒の年齢に應じて排當すること左の如し

自三年至四年

(一) 桃太郎 (二) 舌切雀 (三) 犬の子供を救ひし
話

(四) 雛親鶏の命に従はずして苦しむし話

自四年至五年

(一) 浦島太郎 (二) 金太郎 (三) 犬と影 (インツ
プ)

(四) 兎と龜(同上) (五) 獅子と鼠(同上) (六) 墓

と鼠と鳶(同上) (七) 狐と猫(グリム)

自五年至六年

(一) 花咲爺 (二) 牛若丸 (三) 大國主尊 (四) 蟻
と鳩(インツプ) (五) 鳥と蛤(同上) (六) 狐と狼
(グリム) (七) 小人と靴屋(同上)

賤け方及庶物に關する談話は前既に述べたるが如
くなるを以て時に題目を一定するの要を見ず但し
庶物に關しては大体左の範圍に互らんことを要す

一 肢体 顔 頭 手足等
一 動物 獸類 鳥類 魚蟲等の幼兒に極めて親近
なるもの

一 植物 草木 果實 野菜等の親近なるもの
一 礦物 石 土砂等
一 自然現象 風 雨 雪 日 月 山海 川等
其他平素熟知せる器具玩具被服舟車等の類

●談話の教育的價值 凡百の道德的思想行為の萌芽は同情に在りといふべく而して同情の發達は實に想像の發達と相伴ふ幼兒期に於て徳性啓發の資に供せんがために談話を利用するに當りては須らく是によりて幼兒の心情を育成し其思想を陶冶し其狹隘なる經驗界を補充し以て想像力發達の材料を供し之に由つて同情の發達を促し依て以て道德的思想行為の萌芽を培養することを得べきなり

觀察の粗漏注意の不精密は單に心力發達の上に及ぼす影響大なるに止まらず實に又徳性發達の上に影響すること尠からず善良なる觀察注意の習慣は必らずやこれを幼年時代より涵養するにあらずんば決して一朝一夕に得べきにあらず而して談話に於ては即ち多く實物標本等によりて幼兒の發達到相當せる觀察注意の力を得しむるを以て其點に關

する談話の價值も亦極めて大なるものあるべし心力の發達は又言語の發達に待つものあり而して言語の練習は多くは自然の間に進行するものなりと雖も保育者の注意の如何によりて其正しきを得ると得ざると其發達の速なると速ならざるとに非常の徑庭を生ずるは明なり言語練習を得しむる點に於て談話の價值は更に大なるものありといふべし

●談話の方法

一般に材料の價值は方法の如何によりて定まると多し殊に談話に於て其然るを見る談話の方法は大略左の二に分つを得べし

(一) 説話式

(二) 對話式

説話式は主として保育者より幼兒に聞かしむるものにして専ら新しき材料を授くるを以て目的とす寓言、童話、神話、英雄談の類は此の方式による

こと多し

對話式は保育者と幼児との對話の形を取るものに於て主として幼児をして思想の發表に慣れしめ發音言語の練習を得しむるを以て目的とす既知の談話日常の心得庶物の談話等は此方式によること多し

談話に於ては繪畫實物は實に必須の材料なり繪畫は想像を活潑ならしめ理解を容易ならしむるために缺くべからず若し夫れ庶物の知識を啓發せんがためには實物標本の觀察なくしては殆ど其目的を達すること能はざるべきなり

遊園の設備

●遊園の必要 清潔の空氣廣潤の場所自然の界に於て幼児を活動せしむるとは其心身發育の上に取て極めて切要のことなりとす故に幼稚園に於て

多數の幼児を收容保育するに際しても特別の事情の存せざる限りは完全なる遊園を設備しこれを自然の保育場として利用せざるべからず現今多數の幼稚園を見るに遊園の設備の如きは毫も顧慮する所なく多くは狹隘なる室内に數十の幼児を集め多數の時間を専ら此處に消費せしめつゝあるが如きは誠に保育上宜しきを得たりといふべからず蓋し保育上よりいふ時は普通の場合に於ては専ら遊園を以て保育場とし保育室の如きは寧ろ休憩の所として考ふるを至當とすべきなり此意味より見る時は幼稚園の遊園を小學校の運動場の如きものとするは尙未だ遊園の價値を解せず幼稚園の生命は寧ろ遊園にありといふことを知らざるものと云ふべし

殊に都會の地に在りては各人の家庭に廣潤なる庭

園を有するが如きは稀有のことに屬するが故に都會地の幼稚園に於ては遊園の必要益々大なりといふべきなり

上述の理由に基づきて遊園設備の概要を記述すること左の如し

●廣袤 遊園の廣さは少くとも幼児百人までは百坪以上として幼児百人以上は一人に付一坪以上の割合とすべし蓋し遊園を以て單に幼児の運動場と見るときは其廣さは尋常小學校の運動場に準じて可なるべしといへども遊園の運動場と同一視すべきものにあらざること前述の如しとすれば其最小限を百坪以上と定むること必ずしも廣さに失すといふべからざるなり

●位置 遊園は園地の南方若くは南東の方角に在るを以て可とすこれ冬季北風を防ぎ且つ十分なる

光線に浴するを得しめんが爲なり

園内の設計

(一) 砂礫 勿論地質にもよるべきことなれども雨後の泥濘冬季の霜溶け平常塵埃の飛昇する恐るが如き地には園地に細小の砂礫を入るゝを可とす

(二) 樹木 衛生上空氣を清淨にし寒暑を調節し保育上遊園の美觀を添へて幼児の嗜好を陶冶し或ば採りて保育の材料となさんがために諸種の樹木は遊園に必須の具とす殊に松杉樅の如き常綠樹は其揮發性油の多さがために空氣を清淨する功一層多く落葉樹に在りては夏期は綠葉の繁茂によりて炎熱を遮り冬期は落葉によりて日光を入れるゝに便なり而して此種類の中梅桃櫻柿栗等諸種の花果树は直接に保育の材料として必要なるものに屬す

(三) 運動場 園の一部に平地を設けこゝに幼児を

して共同遊嬉をなさしめ其他活潑なる運動嬉戲を試みるの便に供す

(四)花壇 遊園の裝飾として幼児の嗜好を養ふのみならず時に自ら播種栽培せしめよりて植物の生育の状態を観察せしめ植物愛護の情を涵養する等保育上の利益極めて多し

花壇の大きさは適宜なるべし但し形は細長にして數個に區劃するを便とす

(五)砂場 砂は玩具として幼児の興味に適するものゝ一にして衣服肢体を多く汚損することなく意に任せて玩ふを得るものなれば庭園便宜の場所を撰み適當の大きさを劃して砂場を設くることは亦甚だ必要なり

(六)小丘 變化を愛するは幼児の特性なり故に平地に二三の小丘を設けて園地の單調に陷るを防ぎ

一方に於ては幼児をして自由に奔跑昇降することによりて運動を促進する便に供すべし

(七)小池 尚餘地の存するあらば適當の大きさの池を設けて小魚を放養するが如きことも可なり但し此場合に於ては豫めこれに由りて生じ易き危険を防ぐべき設備を要す

(八)其他幼児に親近なる家禽家畜を飼養するの便を得るが如きことあらばこれに由りて保育上有効の方便を得ること極めて大なるべし
要するに遊園としては出來得るだけ多く自然地理の要素を備へ幼児をして自ら自然界に悠遊するの感と與ふるに至らしめんことは極めて望ましきこととなりとす

(九)器械器具 運動遊嬉に使用すべき爲として特に遊園内に備ふべき器械の必要は未だこれを見ず

何となれば此時代の幼兒にありては尙ほ未だ機械を用ひてなすべき運動遊戲の種類には多く趣味を有せず且つ幼兒の興味に適し而も身體上危険の慮なき器械につきては未だ見るを得ずたい器具としては簡單なる椽臺數箇を備ふるを要す其他の遊戲道具は別項遊戲の調査事項中に認むるを便とす

公園及び社寺境内の利用

遊園の設計は大略右の如し尙ほ幼稚園にして公園其他社寺の境内に近接せる時は宜しく之を利用すること力をむべくこれに因りて保育上一層の効果と便益とを享有することを得べし

會報

明治三十八年十一月二十二日女子高等師範學校附屬幼稚園に於て幹事會を開く、出席者中村主幹下

田、野口、西森、小關、佐藤、武井、田邊、岩井の八幹事なり來十二月の當會に付て協議しなほ保姆取扱法改正に付文部省に建議案願出の件に付て相談したり

入會

靜岡縣志太郡焼津町焼津

大分縣速見郡日出町

山口縣豐浦郡豐西上村吉見上

右事務所申込

京橋區佃島尋常高等小學校

堀 井 伊 東 國 三

神田區今川小路二丁目一番地

堀 井 伊 東 國 三

京都市川原町三條下ル立誠幼稚園

堀 井 伊 東 國 三

會費領収

自明治卅八年十月廿七日
至同十一月廿五日

年 月 日

姓 名

金額	年 月 日	姓 名
一二〇	三八、一〇——三九、九	千 浦 はる
一三〇	三七、一二——三八、一二	吉 野 ふみ
五〇	三八、一〇——三九、二	鈴 木 いし
一二〇	三八、三——三九、二	石 津 まつよ

模殿ため
柳川松
瀧川かね
伊東國三
鳥居飯三郎
町田則文
佐方鎮
佐伯外滙
波多野とく
大羽ひさ
武田錦
後閑菊野
竹島茂郎
今立裕
木内成
堀越源次郎
尾田けい
加藤節
吉村千鶴
立花はる
新波やす
荒井つや
藤岡とき
瓜生繁子

會 告

年末にさし迫り會務整理差支へ候に付
き會費未納の方はこの際至急御納附有
之度候

會
告

フ
レ
ー
ベ
ル
會

本誌 特色

理屈は云はないで實用ばかり
やさしい文章でおもしろいかきかた
子供の育て方には一心ふらん
質問隨意返事は親切でわかるまで
まあ一冊讀んでごらんなとい

第七號

二十一月一日發行

明治の家庭

毎月一回一日
一冊前金六錢
六冊郵税共三十三錢
一年十二冊金六十錢

- 母様ひいて頂戴な.....口 給
- 飽まで剛に勝て.....仁 童
- 子供に新聞雑誌の反古を與へよ.....春 亭
- 東郷大將母堂の逸話.....梓 柳 子
- 長泣きをする子の賺し方.....岸 邊 園 長
- 冬の皮膚病.....ドクトル青木大勇
- お嬢様の經濟豫算表.....茂 木 牛 人
- 米國の下女の仕込み方.....ローレンス夫人
- 孫自慢.....三津本文學士
- お正月の遊び.....津村千代子
- 第三回お伽噺懸賞.....

- 子供の育て方.....
- お正月の重詰め.....
- 剛情の子供へのお伽噺.....
- 家事のいろく(質問澤山).....
- 土曜の夜の田舎の家庭(下).....
- 母と子供の話の仕方.....
- 元祿料理の菓子.....
- 象の編みもの.....
- 家庭藥品.....
- 妊婦の禁食物につき.....
- 疳癪泣きの子.....
- 人見知りの子.....
- 松本常次郎.....
- 文科大學衣.....
- 白.....
- 紫.....
- 石井泰次郎.....
- 福田つね子.....
- 虹.....
- 水.....

發行所 東京市牛込區納戸町六 明治家庭土 寶文館 東京市本區橋本町三 發行所 東京市本區橋本町三 寶文館 電話 三三三

心の花



編輯主幹

佐々木信綱



第九卷第十二

(十二月一日發行)

- 旅がたり
- 短詩(新體)
- 万葉集につきて
- 蝦夷ぶりにて
- 香川の景樹の自信力と其歌に於ける慣
- 用的修辭法
- 喜劇のハインリヒと
- 鐵のハインリヒ
- 夕ばえ
- 會式
- 海邊雜誌
- めりあひ
- 多磨川
- 竹柏園歌話
- 短歌五十首
- 女歌人歌講義

△每號和歌課題點あり△投稿を歓迎す
△定價一冊郵税共拾參錢△半年七拾五錢

△日本橋區本石町一ノ一

竹柏會出版部

小杉文學博士 吉野文學博士 木村文學博士 不破古志郎 彌富濱雄 大塚楠緒子 山磨君浦譯 須磨造學士 沼波文學士 氏岩艶子 白柏會全人 竹柏會全人 佐々木信綱 石搏千波 磯邊千波

家庭に必須の物

一 明治の婦人 社同人は、其實用的才能に、尙ふるに、穩健なる美的修養を以てするものこれ即ち現代が要求する婦人の資格なりと信ず。

一 明治の婦人は此要求に應じて現代に處せむとする婦人の好伴侶たらむ事を期す

第二號は
十二月
一日發行

明治の婦人

女子が必ず読むべき物

▲本誌は婦人雜誌中の米の飯なり ▲讀んことを知らず ▲讀まば ▲事 事は平易で着實で上品なり ▲材料は極めて豊富 ▲知識を得るもの ▲品性を高尚とするもの ▲やくにたつ人 るものは必ず ▲讀むべき好雜誌

毎月一回
一日發行
定價八錢
郵税五厘

發行所

明治婦人社

(電話番町一〇三三)

東京市四谷區内藤町一番地
ろノ十八號

後付の二

- 二色の疑ひ
- 森の女王
- 森かげはらたき
- 京お召
- さるぼちや(豐頬曲眉)
- 支那料理の特色
- 小櫛
- か手輕支那料理
- 妹にふくれる
- シヤロツテブロンテの少女時代
- 色を白くし皮膚を強くする法
- 本村
- 萩村
- 白柳
- 白秀
- 草虹湖
- 白子
- 江子
- 來子
- 月子
- 劍者
- 口孤
- 悦如
- 木如
- 嘉如
- 山如
- 記

- 打つや鼓
- 女子と信仰
- 話のたね
- 垣一重
- 女流俳句
- 修飾と虚飾
- 珈琲
- 逍遙
- 女學生の自覺せる自己の缺點
- 新聞語彙
- 新刊紹介等
- 半佛
- 小野有香
- トルストイ
- 小山内八千代
- 鶴
- 平田みつ子
- 多賀みや子
- 野
- 群千鳥(誌友文)
- 成女學校紀念會

大日本割烹學會 廣告

割烹
教場

本會創立の毎日授業（女子割烹家養成科）は割烹家及一般の希望者の習學、好成績につき、第二回を十二月三日より開始す、志願者は至急入學されたし、○十二月三日より左の新學科部を設く○詳細規則有

一週間
卒業

西洋料理部

束修金壹圓
授業料金貳圓

○學科は、新教授法によりスープのみにても三百四十三通り、他の學科とも二千四百一種を覚え得らるゝ習學法なり、（原料費は自辨なり、約金貳圓也）

教授主任

割烹學校創立者

石井泰次郎

東京市京橋區鈴木町十一番地

十二月

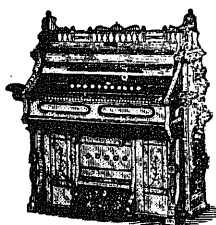
大日本割烹學會

割烹
教場

山葉製風琴ハ第五回國內博覽會ニ於テ第一等賞牌ヲ受領セリ

《附 險 保》

An ornate grand piano with a highly decorative case and legs. The piano is shown from a side profile, facing right. The lid is propped open, revealing the internal mechanism. The case is adorned with intricate carvings and scrollwork. The legs are also highly decorative, with curved, fluted designs. The overall style is reminiscent of 19th-century furniture.



○山葉製洋琴 金參百圓以上
種

●舶來洋琴 三百圓以上三千圓迄各種
●舶來風琴 百圓以上千五百圓迄各種
○鈴木製ヴァイオリン
●金五圓以上五十圓迄各種
●十圓以上各種其
●他弓箱附屬品
●等各種

●舶來ヴァイオリン及弓箱等各種
●樂隊用陸軍音樂吹奏樂器各種
●戰捷紀念國旗印銀笛數種
●八人組織簡易吹奏樂器一組金參拾圓
●右の外手風琴、ハーモニカ、舶來フラジ
●ヨリレット各樂器附屬品、和洋音樂書
●各種郵券貳錢御送附あらば美麗なる目
●録進呈す



現下西洋音樂の騷々として隆盛に趨きつゝあると共に之れに伴ふて舞蹈の發達又期し
待つべし本書は女子高等師範學校其他の諸學校に於て實施せらるる舞蹈の方法及
舞踏曲を記載したるものにして之を練習せんとする人の爲めに其順序歩調等を詳解し
たれば如何なる素人一度本書を繙かば忽ち其方法を曉り又舞曲の演奏をも練習し
し得べし今や第三版を重ねるに當り世の青年淑女諸君に廣告す希くば速に一本を備へ
て本書に依り舞蹈の妙味を習得せられんことを

吉田信太先生編

方

舞

郵稅金六錢

定價金四拾五錢



シガルオノアピ
繕修律調

九二五橋新話電
ヨキ 號略信電

店器樂社商益共

東京市京橋區
竹川町三十番地